

高次脳機能障害ハンドブックⅢ

Work

制作
一般社団法人 どんまいネットみやぎ

〒980-0014

宮城県仙台市青葉区本町1-2-5 第三志ら梅ビル4階

TEL:022-797-8801 FAX:022-797-8802

info@donmainet.com

<http://www.donmainet.com/>



デザイン/イラスト
一般社団法人アート・インクルージョン

●本冊子は、
「公益社団法人フランスベッド・メディカルホームケア研究・助成財団」の
助成事業によって制作されています。

2021.09

一般社団法人 どんまいネットみやぎ

はじめに

一般社団法人 どんまいネットみやぎ
宮城高次脳機能障害連絡協議会

代表理事 遠藤 実



支援のネットワークづくりと就労の道へ・・・

高次脳機能障害は古くて新しい障害です。学問的には歴史のある領域で、決して新しいものではありません。しかし、高次脳機能障害の方たちは、見えない障害、見えにくい障害のため、永らく福祉の狭間に置かれてきました。日の目を見るまで長い時間を要しました。

転機は2001年に始まった、国の高次脳機能障害支援モデル事業です。この20年間で、支援面でも啓蒙面でも目を見張る進展が見られました。宮城県においても、行政、医療、福祉の協働で、当事者の障害に即した支援が行われるようになりました。

東日本大震災後、公的な支援活動に加え、きめ細かな支援を行うこと、県内のどこでも生活の場で支援策が作れるようなネットワークを作ること、そして就労に結び付けるというコ

ンセプトのもと、どんまいネットみやぎを立ち上げました。県のモデル事業の初期を担ったメンバーを中心に、ボランティアとして自由な発想で活動できる団体です。

3年前に、社会的立場を明確にするため一般法人化し、更に、多彩な症状を重ね持った重度例、種々の理由で適切な支援を受けられずにいる例などを対象とする、高次脳機能障害支援に特化したどんまいネット相談支援センターを立ち上げ、高次脳機能障害支援の最後の砦として支援活動の展開を図っています。

本ハンドブックでは障害を克服し、就労できた当事者の方たちの生きた体験を提示し、また、我々の活動を紹介しています。当事者・家族そして支援に携わる方たちの参考にしていただけたら幸いです。

はじめに 02

働いています それぞれの就労への道・事例紹介

エピソード1	遠藤 千寿さん	05
エピソード2	伊藤 英孝さん	07
エピソード3	半澤 拓也さん	10
エピソード4	佐藤 奈穂さん	13
エピソード5	菅原 憲一さん	15
エピソード6	松田 知之さん	17
エピソード7	佐藤 竜也さん	19

高次脳機能障害になっても道はあります！ 21

どんまいネットみやぎとは 23

就労への道

特定非営利活動法人 ほっぷの森

就労支援センター ほっぷ	27
相談支援センター ほっぷの木	31
就労定着支援センター ほっぷの実	32
TFU Cafeteria Olive／びすたへり 榴ヶ岡	33
びすたへりフードマーケット／cafe Jho Jho	35

一般社団法人 つぐかふえ

就労支援センター つなぐ	37
すばんふいーりんぐず 登米	39
すばんふいーりんぐ 石巻	40

一般社団法人 コ・エル

就労サポートセンター とれいん	43
就労定着支援センター とれいんプラス	44
相談支援センター じょいん	

東北大学病院 高次脳機能障害科

診療科長 鈴木 匡子	45
------------	----

東北医科薬科大学病院 高次脳機能障害支援センター

センター長 藤盛 寿一	46
-------------	----

仙台リハビリテーション病院「自動車運転について」

リハビリテーション部 副部長 言語聴覚士 中川 大介	47
----------------------------	----

～ おわりに ～ 「たかピーさんの生き方」 48

働いています

それぞれの就労への道・事例紹介

【わたしの場合】

高次脳機能障害の症状である記憶障害のため

新しいことが覚えにくい、作業中に混乱を起こす、

集中力がない、さまざまな困難な症状がありながら

それを理解し、対応していくことで

社会復帰している方々がたくさんいます。

それぞれの状況に応じて、長期的な観点で

安定して働くために、ひとりひとり場面に応じた

支援サービスを利用し、継続的な就労に至った事例を

知ることでああなたの就労への道をきりひらいてください。



前進あるのみ!

私も日々、成長中です。

遠藤 千寿さん



episode 01
Endo Chizu

私はイオン気仙沼店で商品補充等の仕事をさせて頂いています。レジ打ちは断ったものの、未だに『やってみたかった』と思う時があります。ですが、忘れやすく手も上手く動かせないせいで・・・と、その度に考え直しています。人とコミュニケーションを取ることが苦手なのですが、私の仕事はお客様にわかりやすくお伝えする、お伝えしなくてはいけない仕事です。

そんな私も就職するまでは、長い道のりでした。就労サポートセンターとれいんに通所し、多くの方々と関わりながら、座学でのプログラム受講や企業実習など経験しました。その中では、身体障害と高次脳機能障害がある自分が惨めで情けなくなることもしばしばありました。しかし、周りには家族をはじめ、応援して下さい方がいるのだから、前に進むことを止めるなんて考えてはいけなと自分の気持ちを奮い立たせました。

就職が決まった時は本当に嬉しくて、命を救って下さった医療スタッフや、麻痺を持った身体を回復に導いて下さったリハビリスタッフ、

他にも心が折れそうになった時に支えてくれた家族、とれいんパートナー・・・、多くの皆さんに対し『ありがとうございます』の言葉では足りないほどの感謝の気持ちでいっぱいになったことを、今でも鮮明に覚えています。

ここに至るまで、たくさんのことに悩み、その度に壁にぶち当たりましたが、今になって思うと、悩んできたことに無駄なことはひとつもなかったと感じます。なぜなら、この身体やこの障害は、簡単に答えを出してはくれないからです。数年前の私のように、就職を目指し頑張っている皆さんもいらっしゃると思います。どんな方向にせよ、焦らず時間を掛けて前に進むことで、必ず成長していけるはずですよ。諦めることだけはいけません。私も日々、成長中です。

人生を長距離マラソンに例えたら、走り続けるために給水地点は必要不可欠です。皆さんも適度な休息をお忘れなく♪

就労へのポイント

千寿さん、キラキラ輝いています!

一般社団法人コ・エル 就労サポートセンターとれいん
サービス管理責任者 濱口 聡恵

千寿さんとの出会い、早7年が過ぎました。とれいんに通所し始めの頃は、夏真っ盛りなのにマスクを着けて過ごしていました。それは、後にコミュニケーションを取ることが苦手であることを悟れないためと知りました。

生まれつき心臓疾患があり高校生時代に心内膜炎とクモ膜下出血を発症し、右片麻痺と高次脳機能障害を持ち、既に15年が経過していました。

通所が開始しても活動に対し非常に消極的で、周りから声掛けされてから行動することもしばしばありましたが、月日が経

つにつれ、人一倍負けず嫌いだということがわかりました。

病院で実施した職業評価は『一般就労は難しいかもしれない。常に支援者が側にいる事業所の方が望ましい』というものでしたが、「私にもできることを仕事にしたい」と、声高らかに宣言。食器洗浄や販売関係での企業実習を体験し、イオン気仙沼店に就職が決定しました。

勤務し4年半が過ぎてもなお、「成長していない」と自分自身を卑下する千寿さんですが、誰にも負けずキラキラ輝いています。

職場からのメッセージ

無くてならない人材です!

イオンリテール株式会社 イオン気仙沼店

ビューティー・ファーマシーマネージャー 千葉 まり子さん

遠藤さんには、品出し専門で働いてもらっています。右手、右足が不自由ということで商品も小さい化粧品を担当してもらっています。

入社当初は、品出しする物を全て準備してあげ、並べるだけの状態にしたものを陳列してもらい、お客さまの問い合わせに関しては、レジの人へ引き継ぐことにしていたいていました。

真面目で、がんばり屋の遠藤さんは働き始めてから今まで、急に休むという事は一度もありません。責任感が強くとても頼りになります。売り場をいつでもきれいに保つ事を遠藤さんの目標にしてもらっています。

以前私が驚かされたのは、荷物の積んである所から自分で商品を探し出しダン

ボールから一つ一つ商品を出す準備をしていました。使える左手に右手をそえながら・・・ものすごいやる気を感じた瞬間でした。

今では品出しはもちろん、売場がきれいなのは遠藤さんのおかげ!! どこに何があるかもわかっているの、お客さまの問い合わせにも自分でその場所までご案内してくれています。仕事一つ一つが丁寧で売場はもちろんゴミの分別など、完璧にできています。帰る時にレジにゴミ袋があると、「捨てて帰りますよ」と気配りもしてくれる優しい千寿さんです。歩くスピードも速くなり自信が感じられます。

今後も、あせらず、ゆっくり楽しくやっていきましょうね。



ほっぷの実習から、
つながった、憧れの職場。

伊藤 英孝さん

episode 02
Ito Hidetaka

2002年、母子感染によるB型慢性肝炎とわかり、インターフェロン治療を行いました。が、それ以来、原因不明の記憶力や遂行機能の低下、頭が疲れやすいなどの症状が出て、インターフェロン治療が関係しているのでは?と「疑い」、しかし、当時そのような症例はなくあくまでも「疑い」でした。

その頃の仕事では、スピードが遅い、なかなか覚えられないなどで、職場では苦労しました。仕事がうまくいかないと会社での人間関係もギクシャクするようになり、離転職を繰り返しました。

2014年、広南病院の「もの忘れ外来」を受診。東北大学病院を紹介され、翌年検査入院し、高次脳機能障害と判明。精神保健福祉手帳を取りました。

社会の中で生きていくのが辛い、どうやって

生きていけばいいのか、皆働いているのに…。

障害者手帳はショックでしたが、大変さの理由が高次脳機能障害の症状からくるものだと分かり、少し気持ちが楽になりました。

東北大学病院の紹介で、2015年5月から2年間ほっぷに通いました。

ほっぷでは、自分と同じような症状に苦しむ人達と出会い、苦しみを分かち合えたり、いろいろな障害や症状を持つ人とも出会い、友達もできました。

就労に向けて、自分が職場で働く時、苦労してつまずく事や症状をはっきりさせ、その対策を考える。メモのとり方、メモの必要性の伝え方などの工夫。職場実習への参加、藤崎でも

実習させていただきました。

2017年6月、ほっぷから障害者雇用枠で食品会社に約3年間、一般事務として勤務。そして、2020年9月1日から藤崎に入社できました。自分にとって藤崎は、小学生の頃から好きな場所でした。建物内外の様々な点に歴史を感じ、レトロな雰囲気が残っており、いつか働いてみたいという憧れの場所でもありました。ほっぷの時に実習させてもらったのもその思いがあったからです。配属先は藤崎側の配慮で、実習時にお世話になった部署で、食品の品出し、台車を使つての配送品の運搬等を行っています。

藤崎では、一度にたくさんの仕事ではなく、一つの仕事を自信を持って行えるようになったら、次の新しい仕事を教えてください。忘れないように、メモを取る時間もしっかりくれます。1日の中で仕事の順番が細かく決められているわけではないので、その時に必要なことを今は覚えて行っている、安心、安定してやれています。自主的に動けるのが自分に



合っているんだと思います。分からないことをすぐに周りの方々に聞ける環境が良いです。

これからの目標は、先輩社員がやっている業務内容をやれるようになりたいです。

休日はうまく過ごして、リフレッシュしようと思っています。ほっぷで出会った人達とカホンの演奏をやっている、休日に練習をしたり、イベントのコンサートに参加し楽しい時間を過ごしています。同じ症状を共感できる時間や場、仲間は大事だと痛感しています。

就労へのポイント

望む場所に辿り着くまで

就労支援センター ほっぷ

伊藤さんは、症状の原因が不明なまま、約10年間、離転職を繰り返してきました。

2015年5月東北大学病院のソーシャルワーカーの紹介で、ほっぷを見学体験。「これからは高次脳機能障害やその症状を伝え、長く働ける自分に合った仕事を見つけ就労をしたい。その為に、自分でも症

状や得意不得意を知りたい」という目的でほっぷを利用。

実習や見学会、セミナーなどさまざまなことに積極的に取り組みました。しかし、過集中になったり、優先順位の調整が出来ず、混乱。人との関わりでもうまくいかないと自信を無くすこともあり、その都度、

どうしたら良いのか、対応・対策を考え、改善に向けて取り組みました。

就職活動を開始し、障害者就職面接会で応募した食品会社の採用が決まり一般事務として就労。ほっぶも面接時から関わり、定期的な会社訪問、相談、ほっぶ先輩会などでフォローアップをしてきました。

障害を理解して頂いての雇用とはいえ、

経験のなかった事務職での仕事。出来ないことや辛いこともあったが、気付けたことも多く、3年の節目で転職を検討。以前から希望していた、百貨店である藤崎への就労につながりました。

転職から約1年「好きな場所で長く働き続けるために、今でも自分にはメモがとても大事なんです」と、ポケットに入れ、ぼろぼろになったメモ帳を見せてくれました。

職場からのメッセージ

千里の道も一歩から

株式会社 藤崎 食品部チームマネージャー 庄子 知秀さん

伊藤さんは、とにかく素直で人柄が良く、黙々と仕事に取り組んでくれています。

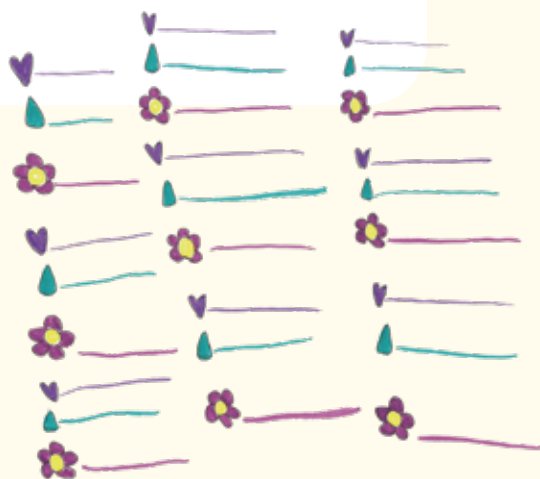
主な仕事は売り場での品出しなので、お客様に声を掛けられることもあります。明るく笑顔で対応し、会話のキャッチボールも出ています。何処に障害があるのか、見た目だけではわからないですね。

入社から約1年、一緒に働くベテランの方が仕事を丁寧に教えることで、一人で出来る事が確実に増えてきています。メインの品出しの仕事は、現時点で100点満点中70点。

もちろん、失敗や間違いはあるので、その都度注意もします。注意や指示に対して、素直に「はい、わかりました」と、聞く耳を持ち、対応する姿勢はとても好感が持てます。

今後、ワンランク上のレベルでの仕事をしていくために、何をしたいか、何が良いのかを伊藤さんの口から聞いてみたいと思います。

「千里の道も一歩から」 勇気をもって一歩踏み出していくことが大事です！



episode03 半澤拓也さん(クリーニング工場勤務)



みんなに支えられての

セカンドステージ。

半澤 拓也さん

episode 03
Hanzawa Takuya

2011年12月、勤務先の岩手県で、フットサルチームの忘年会の最中に脳動静脈奇形による脳出血で意識を失い、岩手県立中部病院に搬送後、仙台の広南病院に移り手術。リハビリのため転院した、東北医科薬科大学病院で高次脳機能障害と診断される。

病気の直後は、しばらくボーっとしていた。東北医科薬科大学病院の紹介で『ほっぶの森』に行くことに。最初の頃は、なぜこんな所に来ないとダメなのか…と思いながら通っていた。ほとんど話も聞いていなかった…最初の頃は、、、やる気もなかった。

通っているうちに周りの環境が変わり始め『やる気スイッチ』が入る。甥っ子姪っ子が生まれ、このままではダメだ!!というのもあった…かも。

ハローワークに行き、就職活動を始める。車が運転できないので、なるべく地元で職を探す。2017年12月、地元の就労継続支援A型事業所での就職が決まる。

2019年11月、地元のクリーニング会社にて採用。2020年5月にはパートから正社員になる。仕事は主にレンタル介護ベットの清掃・整備・梱包・包装の作業。

記憶力が悪いので、分からない時は上司に質問し、メモを取る時間をもらいながら、なんとか出荷に間に合うように作業している。他の部署の方も声をかけてくれるので助かっている。

繰り返し続けることで、頭に入らなくても、身体で覚えられるように頑張っている。

物覚えが悪く、これくらいなら覚えているだろうという事も、すぐに忘れる。なので、メモは必ずする。メモは大事、わからない事は必ず聞く、質問する。

後遺症で左側の目に同名半盲があり、たまに物にぶつかることがあるので、左側には注意しながら動いている。

今の自分があるのは、自分の力だけでなく『周りの支え、協力』があったから。

改めて、家族・仲間に感謝、携わってくれた方々に感謝！

第二の人生だと思ってやっていくしかない。



就労へのポイント

葛藤する気持ちに 寄り添いながら

就労支援センター ほっぶ

2016年4月から、東北医科薬科大学病院からの紹介でほっぶを利用。

2011年に倒れ、2013年に倒れた時に働いていた職場に復職するも、仕事にならず退職。社会的行動障害の症状から、見守りが必要、就労は困難と言われ、地域活動センターを利用。徐々に症状が落ち着いたということで、ほっぶにつながりましたが、その当初はまだ、朝、目が覚めたら、倒れる前の時代の世界に戻るんじゃないか、今、自分が息をして生活をしている世界と違う世界があるんじゃないか、と現実感を感じられないまま、ほっぶでの活動に参加。

いつかは働かないかと思いつつも、何のためにほっぶに来ているのか・・・自分を知る為？ いつの自分？ 今の自分？ と自問自答。

葛藤しながらも、様々な人と出会い、活動、ほっぶを卒業した先輩からの話、自分

の周りの環境の変化もあり、1年ほど経ったころから、気持ちに変化が見られました。

記憶力、注意力、脳疲労、段取り等、高次脳機能障害の症状と向き合い、現実の世界との折り合いが始まりました。

就労に向けて、企業見学やハローワーク活動、障害者合同面接会への参加。自分の状況を知る中で、一般企業での仕事はまだ自信がない。まずは、地元で短時間でサポートをしてもらいながら働きたいという希望で、就労継続支援A型事業所の見学と実習を経て就職。2年後、仕事ぶりが認められ、作業を請け負っていた会社への就職となりました。

記憶と段取りは今も確認とサポートをしてもらうことで、仕事に取り組むことが出来ているようです。



職場からのメッセージ

良い人材に、これからも期待して応援

株式会社 ドリームランドリー 取締役会長 國分 英敏 さん

半澤さんは、以前、当社の仕事を請け負ってもらっていた、ゆめの樹（就労継続支援A型事業所）で働いていました。採用にあたっては、その時の働きぶりを知っていたので、戦力となると思い決めました。まずは、パートとして採用し、半年後からは正社員として働いてもらっています。

真面目で、同じ仕事を根気よくやってくれます。無理もあるのだろうが、頑張ってくれています。仕事は真面目に、休憩時は、冗談を言って（冗談ばかりかな？）。

以前から知っていたという事もあり、新たにという感じではなく、自然になじめていました。良い人材が、地元において、良かったと思っています。

今後、ステップアップとして、ご本人の自宅近くに工場があり、今はパートさんが中心で働いてもらっているが、半澤さんにその工場リーダーとして働いてもらいたい。また、工場の近隣の中学や支援学校から実習生を受け入れているので、実習担当もやって欲しいと考えており、年齢的にも人柄的にも大丈夫だと思い、期待しているところです。

将来的には親を支えていく立場となる。就労の大切さを意識し、社会人として自立してほしい。

ドリームランドリーでは、その力になりたいと思う。



家族からのメッセージ

いろいろな人との つながりを大切に

2011年に倒れて10年。

今まで、病院の先生、リハビリの先生方、ソーシャルワーカーの方、地域支援センターの方、ほっぶの森の方々など、いろいろな人たちにお世話になり、現在に至っています。

今は地元の会社に就職しています。息子の障害を理解していただき、いろいろ

お母様より

な面で配慮、対処していただき感謝しております。

今後も、いろいろな人達とのつながりを大切に生活していただきたいと思います。



一步一步ステップを踏みながら、

これからもチャレンジ

していきます。

佐藤 奈穂さん



episode 04
Sato Nao

私は石巻市出身の25歳です。当時の私は専門学校へ通う為、自宅から鹿島台駅まで、自動車を運転し、電車に乗り換え通学しておりました。とある日、対向車用レーンにはみ出し運転をしてしまい事故にあったとのことでした。この事故が原因で高次脳機能障害を患いました。

その頃の記憶は残っておりません。それゆえに一部の記憶が抜けていて、19歳だった私は何故か自分がまだ高校生だと思っていました。それなのに専門学校の同級生も知っていて不思議な感覚でした。

普段の生活でもメモがないと少し不安を抱くのでメモをとる癖は自然につきました。

専門学校へ通っていた時、ハローワークは存在くらいしか知りませんでした。

けれどほっぷへ通うようになってからは就職について真剣に考えるようになり、苦手にしていた就職活動もパートナーさんのサポートにより前向きにとらえられるようになりました。

これと限らずほっぷでのプログラムは詳しくは言えないものの一つ一つ大事だったように私は思います。さまざまな年齢層がゆえに味わえるコミュニケーションも仕事に生きてくるなと思うので、私にとっては、ほっぷのプログラムに参加したことはプラスでした。

私は今回が初めての就職だったので不安もたくさんありました。実際に通勤してみても最初に抱いていた不安もなくなりました。お忙しい中、担当して下さる職員さんも分かりやすい説明をして下さったので、今の仕事を3年続けることが出来ます。



就労へのポイント

不安がいっぱいの中でも、
しっかり自分で決めながら一步一步。

就労支援センター ほっぷ

佐藤さんは退院後、地元の自立訓練(生活訓練)*1を利用し、専門学校へ復学、卒業。当時リハビリで通院していた、東北医科薬科大学病院からの紹介で2017年4月からほっぷの利用となりました。

事故による頭部外傷の後遺症で、記憶や注意障害、脳疲労の症状が見られました。不安な分、メモをしっかり取り、丁寧に聞くこともでき、得意なこともあるのですが、自信を持っていませんでした。仕事に関しては、学生の時の数日のアルバイト経験のみ。仕事の経験も幅広い年齢層の方と関わることもほとんどない状況でした。見るもの聞くものすべてにおいて不安なため、気持ちを聞きながら、焦らず佐藤さんの決

めるスピードに合わせてながら、企業見学、職場実習、ハローワーク活動、そして求人応募、面接と一つ一つ取り組みました。

初めての就労なので、まずは働くことの経験と実績、少しでも自信を持って次のステップにつなげられればと、石巻市役所のチャレンジ雇用求人*2に応募。2019年5月から就労。

2020年1月より、当法人のほっぷの実での定着支援サービスを利用し、就労定着支援を実施。今は、雇用期間が来年(2022年)3月までの為、働きながらその後の就労に向けて、一緒にハローワークでの相談を開始しました。

*1) 自立訓練(生活訓練)：

自立した日常生活や社会生活が送れるよう、生活能力の維持・向上のための訓練をおこなう障害福祉サービス

*2) チャレンジ雇用：

各府省や自治体において最長3年までの雇用の中での業務経験により、一般企業への就職を目指していくための雇用制度

家族からのメッセージ

未来に向かって！

お母様より

将来、音楽の道に進みたいと専門学校へ通い、その通学途中事故に遭い、障害が残りました。

初めは元の生活が送れるかさえ不安でしたがが学校に戻りたいという目標をもち、病院でのリハビリ、自立支援での訓練を経て休学していた専門学校に復学し、卒業する事が出来ました。

メモをとる習慣付けや確認する癖をつけるように指導していただき何度も繰り返して行うことで出来る事は増えていきました。

家族はつつい手を貸してしまいがちですが、見守る勇気も必要だと教えて頂きました。

ほっぷさんでは仕事に対する心構えや気持ちの整理の仕方など、メンタル面も親身に教えて頂きました。

今はチャレンジ雇用の中で次の就職に向かえる様に毎日頑張っています。これまで携わって頂いた皆さんに感謝しながら、これからも社会と関わって行って欲しいなと願います。



自分のことを認め、

出来る事を見つけ、

先に進む。

菅原 憲一さん

episode 05
Sugawara Kenichi

2018年8月脳梗塞を発症、東北大学病院に入院。仙台リハビリテーション病院で4ヵ月間リハビリ入院後、復職を目指して、2019年2月からほっぷを利用。

脳梗塞は年寄りになるものだと思っていて、まさか自分になるとは思ってもいませんでした。後遺症として、感覚性失語の診断。聞く方の理解は改善が見られたが、話す・伝えるが難しく、文字で見ながらの配慮が必要です。

病院からほっぷ利用の提案をされた時は、通う必要性がわからなかったが、実際に10数名の方々と一緒に活動することは今思うと必要だった。

10時～16時就労に向けてのプログラム。中でも、始めのミーティングでテーマについて発表するのは自分にとっては相当難しかった。だからこそ大事なトレーニングでした。皆がスラスラ話すのを見て(聞いて)スムーズに話せない自分を感じ、やれるかなと多少の不安もありました。

早く復職したい気持ちはすごくあったが、まずは実習をしてからとなりました。約3ヶ月、日数や時間を延ばしながら実施。そして、2020年7月1日復職。週4日1日5時間から始まり、状況を見てもらいながら時間や日数を増やしてもらい、今は週5日

1日8時間で仕事をしています。また、復職当初は、バスと電車で通勤していましたが、今は運転再開の許可が出たので、大好きな車で通勤しています。

仕事は営業から総務の仕事に変わりました。初めての部署なので新人状態です。

新聞の配布からスタートし、メールチェック、使送便、郵便の仕分け配送、領収書発行、新車部のお客様確認、ラミネートフィルム加工。その他、地域貢献活動にも参加しています。

いつかは、営業に関わりたいという気持ちはありますが、症状が完全に良くなることは難しいのも分かっているため、何らかの形で関わっていければと思っています。

その為に、今は目の前にある仕事を一つ一つミスがないように、しっかりとやっていきたい。

自分の障害(症状)では営業の仕事は難しいとわかったことで、自分の状況を認め、受け止め、切り替えられた。

出来なくなったことをいつまでも考えていてもどうしようもないので、これだったらできるなあという事を早く見つける。そのために、周りの力も必要。そして、自分のことを認めることで、先に進みやすくなると思う。

就労へのポイント

皆の協力と自分の努力で手にした道

就労支援センター ほっぷ

ほっぷ利用当初は質問に対する返答が見当違いのこともありました。しかし、文字の理解は比較的良かったので重要なことを説明する際は文字を介して行いました。週1回の外来リハビリを利用してため、担当のリハビリスタッフとも密に情報共有しながら、ほっぷでも会話や文章等でコミュニケーショントレーニングを行いました。

ほっぷでのトレーニングを1年継続し、通常の会話であれば理解出来るようになっていました。表出は、話したいことは分かるが言葉に詰まることが多々みられました。特に苦手としていたのは数字が入る会話や数字の打ち込み、書き写しも、本人が読んだ数字と実際に書く数字が違っていること

がありました。会社での実習中も同様のことがあり、会社の方にも失語症の症状の一つであること、対応方法を説明しました。

また、元々メモを取る習慣がないため仕事をしていく上で、一回聞いて覚えることは難しかったです。そのため、メモ帳を準備し実習期間で、作業の説明を受けたら、メモを取ることを徹底しました。同様にほっぷや病院のリハビリスタッフとも共有し、短期間でのメモを取る習慣の獲得を目指しました。メモに関しては現在も継続して練習しています。

2020年7月復職。2021年1月からは当法人のほっぷの実での定着支援サービスを利用しフォローアップ継続中です。

職場からのメッセージ

ポジティブさは忘れず 甘えは捨てて一歩ずつ

トヨタカローラ宮城 株式会社
企画総務部 社員の皆様

菅原さんは、郵便・配達物の仕分けや発送、領収証の発行、その他、各部からくる仕事を行っています。また、地域貢献活動にも積極的に参加し植栽で汗だくになりながら行っています。

一緒に働いていて出来ないことや不安な仕事に関して、甘えて自分でやろうとしない時がありますが、頼まれたことに関しては嫌な顔一つせず快く引き受けてくれます。とても明るい性格で、何事にもポ

ジティブで場を和ませてくれます。

障害に対しては、なかなか理解できないことやメモが取れない時があるので、本人が理解しているか反応を見ながらゆっくり丁寧に説明するように心がけています。

今後は、1日のスケジュールを考え、自分でやれるようになって欲しい。そして、自分で立てた目標を達成できるように責任感を持って取り組んで欲しいと考えています。

困った時は、
頑張りすぎず、
相談が大事です。
松田 知之さん



episode 06
Matsuda Tomoyuki

振り返ると事故後、障害がわかるまで真面目に勤めて働いた仕事の実らず、10数社転々としていました。病院で診察をし、高次脳機能障害だとわかりました。

私の場合は人の話を理解するのが遅かったり、聞いても忘れたり、メモっても理解しなかったり、主語述語を使って話せなかったり、先週した仕事の段取り、使用した道具の名前、仕事で使う言葉を覚えられませんでした。頭の中いろいろ考え、考えすぎと言われたこともあります。毎日1つ2つミスがあったので困っていました。いつも満足した仕事が出来ませんでした。

就労移行支援事業所アビリティーズジャスコでPCの練習やコミュニケーションを勉強し、その時に入ったかったサービス業の会社に就職しました。勤務開始してからも1か月に1回勤務先を訪ねていただき、困っていることを聞いて解決してくれていました。そこでの雇用契約が終了し、次に求人で見つけた仕事で現在勤務しているOlive(就労継続支援A型)です。今勤務しているレストランは長く勤めたいと思っています。

Oliveでは現在コロナ禍で自粛しながらの営業をしています。僕は今Oliveでの弁当作りとびすた〜り榴ヶ岡での盛付けや皿洗いを担当し、施設外就労では就労継続支援B型のフードマーケットの方と農作業をしています。働く上で大事なことは話を聞く姿勢だと思っています。すぐにメモをとるように手を後ろに組んだりせず話を聞く。注文や大事なことは声に出して伝えること。私語は慎む。ホールから窓越しに厨房が見えるので、のどが乾いたらしゃがんで水を飲む工夫も大事です。

昼食は美味しい「まかない」があり、僕はとても嬉しいです。

自分が障害者だと知った時は、区役所の障害者係の所で相談すると良いと思います。その後、就労移行支援事業所へ行くといいと思います。なぜかというとなら就労の学校のような所なので、同じ障害の知り合いや友人ができてやすいと思うからです。

就労へのポイント

Oliveで働くまでの経緯

就労支援センター ほっぷ

松田さんは、20歳の時、交通事故によって頭部外傷を負いました。事故後は障害が残ったことはわからず、10数年間、仕事がなかなか続かず、自分でいろいろ調べ、東北医科薬科大学病院への受診をし、高次脳機能障害の診断となりました。

それからは、役所や支援機関との相談をし、ウエルポート仙台の方と、何か所か就労移行支援事業所を見学。その中のアビリティーズジャスコを利用。利用期間中に就労支援センターほっぷで委託を

受けていた、高次脳機能障害のある方を対象にした、就労訓練(*1)に3ヶ月参加。訓練中は、自分と同じような症状の方々とこれまで仕事をしてきた中で難しいと感じていた、覚える事や話の理解の仕方などのトレーニングを実施。訓練終了後、アビリティーズジャスコに戻り、就職活動をし、一般企業へ就労。雇用契約の終了となり、Olive(就労継続支援A型)への応募、就労につながりました。

*1) 障害者の就労支援対策として、宮城障害者職業能力開発校が民間に委託して行う公共職業訓練。就労支援センターほっぷでは、

高次脳機能障害の方を対象とした3ヶ月間の就労訓練を委託され実施しています。



職場からのメッセージ

松田さんはOliveがオープンした直後の2019年2月から働いていただいている一番最初のスタッフです。持ち前の明るさと周りの人への気配りを常に忘れず、オープン当初のバタバタした時期も元気に乗り切ってくれました。主にレストラン調理場内での食器洗浄や盛付けなど、調理補助を担当しています。新しいことを覚えたり、覚えたことを頭にとどめておくことは難しい時もありますが、自分で正直に伝えてくれるので、根気よく、より分かりやすく伝えるよう心がけています。なるべく指示を一つずつ小出しにした

生き生きした笑顔はみんなを元気に!!

特定非営利活動法人 ほっぷの森
TFU Cafeteria Olive

安斎 純子さん

り、優先させる事を事前にハッキリ伝えたりすることでスムーズに仕事をこなしています。

誰からも好かれ周りに気を遣う分、疲れ過ぎたりしないか、モヤモヤを溜め込んでないかと心配な時は、小休憩をとり大好きなおしゃべりで気分転換しています。人が好き、食べる事が大好きな松田さんはOliveにはピッタリな方です。

これからも一緒にお客様を美味しい料理で笑顔にしよう!

相互理解と思いやりを持って働いています。

MRCジャパントータルマシンプロデュース

社長 近藤 晃一 様

佐藤君は今現在される側からする側に大きくシフトするため、人や社会の役に立ちたいと努力し、そしてなりたい自分へと自己実現を達成するため、日々の目標を一つずつ達成しながら仕事に励めます。就労支援センターつなぐ様、それからご家族の方にも直接会社の理想やビジョン、社訓についてご説明させていただきましたご理解をいただきました。佐藤君の病気の説明を受け、それをスタッフみんなで共有し思いやりの気持ち、そして感謝の気持ちを持って、日々協力し合い働いております。

会社としては就労日の調整や日数時間を柔軟に対応し、心身の健康を崩さぬよう元気に働いてもらっております。現在は実作業としては塗装前の下地処理、塗装箇所のマスキング、塗装調色のお手伝い、ボディー磨きのお手伝い、納車前の洗車作

業となり、先輩スタッフの指導のもと勉強しております。その他休憩室やトイレ、台車などの清掃作業も進んで行っています。最初の三ヶ月は作業は二の次三の次で、まず職場環境の慣れを意識。新しい生活リズムの構築のため規則正しい生活を心がける事。日々大小にこだわらず目標達成しよう。休日の体はもちろんですが、心の休養もしっかり行う。以上のことを本人と私とスタッフで意識しておりました。もちろん支援センターのパートナー方の大きな支えも借りながら、佐藤くんも前向きに頑張ることができたのだと思います。

今いるスタッフの中で最年少の佐藤君と最年長のスタッフの年の差は約50歳。老若男女それぞれに持病を抱えながらもインクルーシブな環境で相互理解と思いやりを持って働く一因となっています。



自分をわかってくれる
人がいるという安心感が、
前向きになっていった。

佐藤 竜也さん

episode 07
Sato Tatsuya

転職を3回し、在宅生活を送っていた時に母親に連れられて行ったのがきっかけで(実際のところは面倒くさかった)暇だったので遊び感覚?で何度か通うようになった。(母から連れて行かれたというのが正直な気持ち)

初めの頃は、人の声が気になって、楽しくなかったが、しだいに人の声にも気にならなくなり、座学やグループワークが楽しく感じました。

もともと話すのが苦手で、自分の思いを伝えるのは苦手だったが、徐々に話せるようになって行ったことがとても良かったです。就職の準備で、自分の思いを話す、文書にすること、履歴書の書き方や面接の練習では自分のことについての説明(病気のことや性格)など何度も練習しました。

実際の面接では緊張はしたが、職員が付いてくれたことでの安心感があった。就職してから、気持ちが落ち込み無断欠勤を何度かして、つなぐに呼び出され、厳しく励まされたことで責任を再認識し、翌日、社長と社員全員に謝罪することができた。「自分からごめんなさいをいう人ではなかったね」と母に言われた。職場が自分を受け入れてくれていること、周りに自分のことを解ってもらえている安心感があり、以前よりは前向きに行動できている実感があります。

今度、休みの日や、詰まった時はつなぐに行きます。その時の不安を読み取ってくれて背中を押してくれると安心感があります。定期的に勤務先を訪問してくれることも安心です。

少しずつ、できることが 増えてきたのを実感...

ご家族より

小さいころから引込み思案のタイプで進んで話すことなど、もともとできないほうでしたが、つなぐでの訓練と職場(社長)にとても良い理解を得られたことで飛躍的な成長が出来たことに大変喜んでおります。

家でのちょっとした事を手伝ってくれたり、先を見越した話が出来ようになったり、まだまだ安心するには早すぎますが、つなぐパートナーさんと、信頼できる社長さんのもとで更に成長する様子を見守りたいと思います。

高次脳機能障害になっても道はあります！

安心して生活するために各種制度や福祉サービスを知りましょう。



本人

受傷（入院）

手術・治療

リハビリテーション

入院リハビリ
外来リハビリ

ここから本人の社会的環境（年齢、職業、職場環境、病気の状態、住んでいる場所、家庭の状況など）によって、進む道はさまざまです。自分一人では、相談・支援の手続きは難しいので、まず病院の「ソーシャルワーカー」、またはお住まいの「行政窓口」にご相談ください。

病院で困ったら・・・

どんまいネットみやぎ理事

岩澤 直子（元東北大学病院 リハビリテーション部 ソーシャルワーカー）



ソーシャルワーカー（以下SW）を訪ねてくる患者さんご家族は、先の見えないことに不安を抱きながらやってきます。医師から「病院での治療は終わりましたが、高次脳機能障害は残ります。今後のことについては、専門の人と相談してから社会復帰を考えるように」と言われてしまいました。

患者さんやご家族は、いろいろな問題が一度にやってきて押しつぶされそうな気持です。この抱えきれなくなった問題を、解決しやすいように手助けし、社会的自立への道を一緒に探すのがSW役割です。

患者さんは「会社から元通りに回復してから復帰してほしい」と言わ

れ、すぐにでも仕事をしたい気持ちを抑えきれずイライラが爆発して家族に当たってしまいがちです。ご家族も「自分がしっかりしないから・・・」と自分を責めています。SWは、そんな気持ちを受け止めながら、社会復帰までの段取りを一緒に考えます。

まず、経済的基盤を確保してから、就労支援機関を紹介します。患者さんの「働きたい」という気持ちを大切に、持っている力を最大限生かせるよう関係機関と連携して支援をすすめます。患者さんご家族が、地域で孤立せず社会生活が営めるように、自分を信じて前に進めるようにと願いながら・・・。

相談できるところ

医療相談室

医療保険、介護保険、障害者手帳の申請など、まずは病院で相談。

行政窓口（市役所、町役場など）

医療保険、介護保険、障害者手帳、福祉サービスなどの申請窓口。

年金事務所

障害年金申請窓口。

相談支援事業所

障害福祉サービスを利用する際に計画作成を依頼、各福祉サービスの調整などを行う。

地域包括支援センター

ケアプランなど介護保険に係るものを相談。

障害者職業センター

職業評価やジョブコーチ支援の相談窓口。

障害者総合支援センター

仙台市の高次脳機能障害に関する専門相談機関。

ハローワーク

離職した際の失業給付手続き求人応募する際の相談窓口。

福祉サービス事業所

自立（機能）訓練

理学療法や作業療法など身体機能向上のための訓練。（最長1年6ヵ月）

自立（生活）訓練

生活能力向上のために必要な訓練を実施。（最長2年）

就労継続支援 B 型

さまざまな作業を身につけると、他の人と一緒に働くことを学ぶ。（雇用契約なし）

就労継続支援 A 型

一般就労と同じに、雇用契約を結び保健制度もあり、最低賃金を保証します。（雇用契約あり）

就労移行支援

自分の望む仕事を見つけ、就労に結びつくトレーニングを行う。（最長2年）

就労定着支援

一般就労に移行し6ヵ月経過に、働き続けるため企業と本人の間に入って継続的に支援を行う。（最長3年）

ジョブコーチ支援

障害のある方が職場に適応し働き続けるために雇用前、雇用後に企業を訪問し本人、企業担当者にアドバイスを行う。

どんまいネット みやぎ

宮城高次脳機能障害連絡協議会

障害の支援の中に「失語症」と「若年性認知症」も含まれるようになりました。

高次脳機能障害のご本人とご家族が、自分の住み慣れた地域で、安心して生活し社会に参加できることを願って、医療、行政、福祉のネットワークを構築・活用しながら日々活動しています。

●「どんまいネットみやぎ」の活動

ピアサポーター養成講座

ピアサポーター実践講座の開催

障害を持っているご本人・ご家族をピアといいます。それぞれがそれぞれの立場で互いに支え合い支援する人をピアサポーターといいます。私たちはこの障害に関わる全ての人も含めて、ご本人、家族、あるいは関係者だからこそ共感し、理解しあえる関係性を作ることが目的にこの講座を毎年開催しています。医療、行政、福祉などさまざまな分野の方に講師をお願いしております。ご本人・ご家族に講師をお願いすることもあります。実践講座では、最後に参加者同士の交流や意見交換がなされるグループワークがあります。直接話を交わすことでお互いを感じ、認め合い、支援の輪が広がる実感があります。

養成講座は全5回、終了された方には修了証を差し上げております。実践講座は全3回です。仙台の他に石巻、栗原、柴田町など地域の病院の協力をいただきながら開催しています。

宮城高次脳機能障害連絡協議会（通称「どんまいネットみやぎ」）はこの障害に関わってきた医療、福祉関係者を中心として、2012年6月に、有志で設立した団体です。

「特定非営利活動法人ほっぷの森」に事務局を置き、2018年4月に法人化しました。さらに「どんまいネット相談支援センター」を併設し、今日に至っています。途中から、高次脳機能

宮城高次脳機能障害 リハビリテーション講習会 の開催

「どんまいネットみやぎ」設立当初より日本損害保険協会の助成を受けて行っている講習会です。高次脳機能障害は外見からはわかりにくい障害です。何でも出来そうで実際には出来ないという障害です。周囲の理解が得られず、それゆえに苦しみ、大変生きづらくなってしまう。高次脳機能障害に関わる医療、福祉、行政の方々、ご本人ご家族の方々はもとより、広く一般の方々にも参加していただき、理解を深め支援の輪を広げるべく開催しております。

毎年1～2回、仙台市の他に気仙沼市、石巻市、大崎市、蔵王町などにおいても開催されました。



「ほっぷの森」との協働

就労移行支援事業所である「就労支援センターほっぷ」の利用者の6～7割が高次脳機能障害者です。「どんまいネットみやぎ」が医師や言語聴覚士、作業療法士、ソーシャルワーカーなどの専門家集団であることから、「ほっぷの森」の就労をめざす高次脳機能障害の方や、実際に就労に至った方などに関するカンファレンス（症例検討会）を行っています。カンファレンスにはご本人と家族、実際に支援に当たっている福祉や職場の方、行政の方などにも参加いただき、現在の状況と今後について、さまざまな視点からの話し合いがなされます。先輩の参加もあります。

カンファレンスは月1回ですが、一堂に会して行うことによって、互いに情報を共有し意見の交換ができます。ご本人にとっては客観的に自分を振り返る絶好の機会となり、次のステップへの足がかりになります。

宮城県の保健福祉事務所（7圏域）との連携

見えない障害といわれる高次脳機能障害は、適切な支援につながることが難しく、地域によっては孤立してしまうことが少なくありません。「どんまいネットみやぎ」は宮城県の保健福祉事務所と連携し、高次脳機能障害者支援ネットワーク会議や研修会を開き、活動報告をしたり、今後の課題について情報交換をしたりしています。誰もがその人が住み慣れた地域で適切な支援につながるよう、ネットワークを構築するだけでなく、連携することによって、支援する側の力量も一緒に向上させたいと考えています。

ネットワーク公共機関

●宮城県リハビリテーション支援センター

〒981-1217 名取市美田園二丁目1-4 TEL022-784-3588（リハビリテーション支援班）

●仙台市障害者総合支援センター（愛称：ウェルポートせんだい）

〒981-3133 仙台市泉区泉中央2-24-1 TEL022-771-6511

〒980-0014
仙台市青葉区本町1-2-5 第三志ら梅ビル4階
TEL022-797-8801 FAX022-797-8802

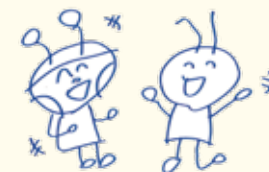


「どんまいネット 相談支援センター」との協働

交通事故の後に、あるいは脳卒中などの脳の病気の後に、記憶が保てない、学業や仕事が思うようにできない、無気力になった、怒りっぽくなったなどで、生活に支障ができてしまっている方やそのご家族の相談に応じています。

お話を伺い、さまざまなサービスを紹介する、サービス機関との連絡調整を行う、サービスの利用計画を作成する、継続的に状況確認を行うなどの具体的支援を行います。

専従の相談支援専門員が「どんまいネットみやぎ」の医師や言語聴覚士、ソーシャルワーカーなどの専門家と連携しながら、障害の性質、個々人の生活環境に合った適切な支援につなげていきます。



一般社団法人 どんまいネットみやぎ 相談支援事業

どんまいネット 相談支援センター

〒980-0014
仙台市青葉区本町1-2-5 第三志ら梅ビル4階
TEL090-2973-1180



どんまいネット相談支援センターは、
2018年11月1日に仙台市及び宮城県内
を対象に開設されました。

高次脳機能障害、若年性認知症の方、
その他の障害をお持ちの方の支援を
行っています。

相談支援とは、ご本人が前に進むため
の生活のプランとして「サービス等利用
計画」の作成等を通じ、ご本人の自立生
活のお手伝いをさせて頂く場所です。

主に障害を診断された方々が、どのよ
うに日常生活や社会生活を送る事が出
来るかなど、現在抱えている悩みや出来
ない事を一緒に考え、福祉、医療、行政、

労働などの関係機関と連携して、必要な
情報の提供や助言などを行っています。
障害の部分だけが問題視されるのでは
なく、まずはご本人や家族が今何に困っ
ているのかを整理していく事が、支援を
する上で1番大事ではないかと考えて
います。その上で必要な福祉サービ
スの利用を組み立てていく事で、ご本人が
望む未来の形が見えてくるのではない
かと思っています。

障害があるから出来ないではなく、少
しの支援があれば出来るに
力強く変える事が出来るように、一緒に
考えていきましょう。

どんまいネット
みやぎ
ネットワーク

就労トレーニング&支援機関

● 特定非営利活動法人 ほっぷの森

就労支援センター ほっぷ

相談支援センター ほっぷの木

就労定着支援センター ほっぷの実



実際に働く場所として

就労継続支援事業A型

● TFU Cafeteria Olive

● びすた〜り榴ヶ岡

就労継続支援事業B型

● びすた〜りフードマーケット

● cafe JhoJho

ネットワーク事業所

仙台

● 一般社団法人 アート・インクルージョン
就労継続支援B型事業所 Aiファクトリー

登米

● 一般社団法人 つぐかふえ
就労支援センター つなぐ
相談支援事業所 すぱんふいーりんぐず登米
相談支援事業所 すぱんふいーりんぐ石巻

気仙沼

● 一般社団法人 コ・エル
就労サポートセンター とれいん
就労定着支援センター とれいんプラス
相談支援センター じょいん

福祉・医療・生活・就労など、支援の輪があります。どんまいネットはそのつなぎ役!!

相談支援センターとは？

障がいのある方ご本人、ご家族等からの相談に応じて、
福祉サービスをはじめ、必要な情報の提供や助言などを
行う事業所です。
ご本人の望む生活全体のプランとしての
「サービス等利用計画」の作成等を通じて、
ご本人の自立生活支援を、
地域の様々な資源を活用しながら行います。

どうしたらいいの？

● まずお電話ください。
☎090-2973-1180

費用はかかるの？

● 基本的に 無料 です。

どんまいネット 相談支援センター 基本方針

- 何の障がいかわからない方もご相談ください。
- ご利用者の様々な権利を尊重します。
- ご利用者一人ひとりの想いや困りごとを伺い、
将来の事など、ニーズに合わせて対応します。
- 本人の身になって共につくりあげていきます。

どこに相談していいかわからずに一人で抱え込んでいませんか？

交通事故にあつてから、あるいは脳梗塞等の病気をしてから、行動や話すことがおかしい、
今までとは別人のようになってしまった……それは、もしかして 高次脳機能障害 かもしれません。
まだそんな高齢でもないのに、物忘れがひどく、簡単な計算もできなくなった、怒りっぽくなったり、
人格が変わったみたい……それは、もしかして 若年性認知症 かもしれません。
高次脳機能障害や若年性認知症の診断が下された時、どこへ相談したらいいかわからない……というのが実情ではないでしょうか？
一人で悩んでいませんか？ 家族だけで抱えこんでいませんか？
病気のこと、今後のこと、気持ちのつらさ、ご本人やご家族が直面している様々な悩みや不安を話してみませんか？



ご相談をお受けし、福祉、医療、行政、労働などの関係機関と連携しながらサポートします。
本事業所は、精神障害者の特性及びこれに応じた支援技法等に関する研修課程を修了した常勤の相談支援専門員1名を配置しています。

指定一般相談支援事業

病障がい者支援施設等から地域生活への
移行を希望される方に対し、地域移行支援計画
を作成し、地域にある障がい福祉サービスの
体験利用や一人暮らしに向けた体験宿泊、
家を探すお手伝い等の支援を行います。

指定特定相談支援事業

障がいのある方の「望む生活」のための相談に応じ、必要な
情報の提供及び助言等の他、必要な便宜を提供します。
障がい福祉サービスを利用する際に、サービス等利用計画
を作成し、継続的に状況確認を行う等の支援を行います。

障害児相談支援事業

障がいのあるお子さんが障がい児通所支援
（児童発達支援や放課後等デイサービス等）
を利用する前に、障害児支援利用計画を作成し、継続的に、そのお子さんにとっての
どのような見直しをしています。

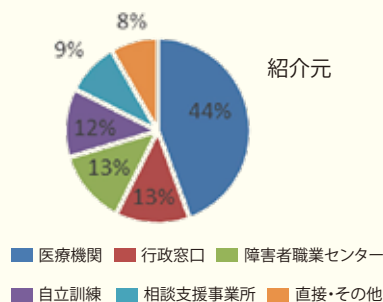


様々なプログラムを通して学び、2年間のトレーニング期間内で一般就労を目指します。
2007年の創立以来、約200名の方が利用。うち約65%の方が高次脳機能障害です。
(※2021年7月現在)



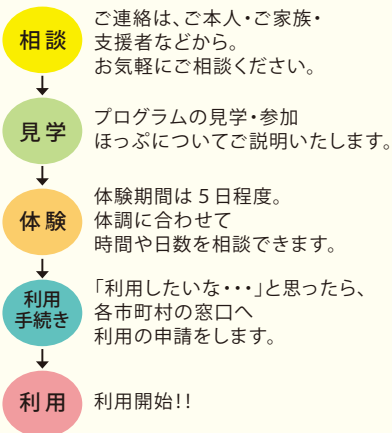
● ほっぷ利用のきっかけ

交通事故や脳梗塞などの治療を受けた方が病院や相談支援機関、障害者職業センターなどの支援を受けてつながってきています。最近では退院して自立訓練でのトレーニング後に利用する方も増えてきています。



● 利用までの流れ

お住まいの各市町村窓口への申請になりますが、まずはご相談ください。



● トレーニング内容について

座学での講座中心になりますが、学校のように教えていくのではなく、一人一人の個別支援計画をもとに各プログラムに取り組みながら就労に繋いでいくことを目的としています。

Basic & Skill up 基礎トレーニング スキルアップトレーニング

ひとりひとりの個性とスピードを大切に。

健康・体力

ストレッチ
栄養管理講座

表現力

作文
脳トレ

作業スキル

パソコン
簡易作業

コミュニケーション力

グループワーク
ボイストレーニング

自己管理能力

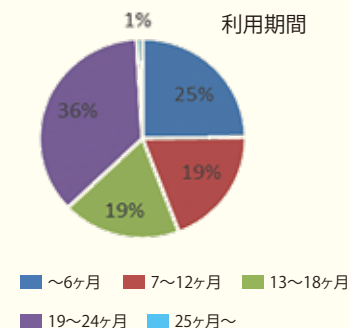
メモリー
ノート

ビジネスマナー

模擬面接
みだしなみ講座

● 利用期間について

自分を知り、仕事を知り、企業を知り一般就労を目指すので個人差があります。早く就労することも大事ですが長く働き続ける準備をしっかり行います。





●就労状況について

それぞれの目標に向かってハローワーク活動を行い、求人票を検討、見学や実習を経て一般就労を目指します。また休職中の方は復職を目指し企業担当者と一緒に準備を進めます。

Job & Working 就職活動 Action

まずは働くことを体験しましょう。



●就労後のフォローアップについて

就労開始から6ヵ月間は就労支援センターほっぷが定期的な訪問や面談を通してフォローアップします。就労開始7ヵ月目から最長3年間、就労定着支援サービスを受けることが可能です。フォローアップの内容については就業先の状況にもよりますので個別で計画を立てていきます。また年に数回開催する「先輩会」では懐かしいメンバーと久しぶりに再会する機会になっています。

After & Follow up フォローアップ

仕事を続けられるようサポートします。



●妻として・・・ ～高橋さん～

さまざまな場面において、主人は「した」私は「していない」と行動に対する判断に大きな差が生まれたり、ストレート(2D)な捉え方はできますが、立体的(3D)な捉え方が難しいので、共に生活する中で主人の行動に翻弄されることがしばしばあります。また、不用品と有用品の線引きが曖昧で、その判断ができないことから来る身の回りの乱雑さなどは、病前から持つ性格が全面に出ているのか、高次脳症状から来るものなのか、そうではないのか、私自身まだつかみ切れていません。

受障から約3年、これまで出会ったご家族や支援者からのお話も聞きながら、1年頑張

れば、訓練をすればと今日に至っていますが、まだまだ納得までは難しく、おそらく永遠のテーマなのだろうと思っています。

【経緯】

40代男性。2018年脳内出血(右被殻出血)による、高次脳機能障害(注意、記憶、遂行機能障害)、左上肢運動麻痺(杖を使用)、構音障害。退院後、デイケアの通所リハビリ利用。その後、1年半の自立訓練*1を経て、<2021年3月よりほっぷを利用中>

*1:自立の促進、身体機能の維持向上等を図るために、通所により機能訓練を行う障害福祉サービス事業

●父親として・・・ ～菅原 学さん～

2014年、娘28歳・社会員が突然の脳腫瘍に、術後抗がん剤治療を受け乍ら傷病手当で生活し、2016年頃から又少しずつ働き始めました。しかし職場では作業指示通りに出来なかったり、みんなとの人間関係もうまくなかったりしたため、会社を転々とし本人もかなり落ち込んでしまいました。その為主治医に相談し高次脳機能障害科の受診となりました。私も初めは病的なものとは知らず、本人の努力とか注意不足だろうと思って対応していたので受診が遅れた事を

少し悔いています。

今は病院の紹介もあり就労支援センターほっぷ、どんまいネットみやぎ様の支援を受け前向きに就労に向けて頑張っています。

【経緯】

30代女性。2014年脳腫瘍(右前頭葉)による、高次脳機能障害(注意、記憶、遂行機能、社会的行動障害)。2019年に高次脳機能障害の診断を受け、<2020年2月よりほっぷを利用中>

●妻として・・・ ～W.Tさん～

夫は高次脳機能障害と診断された後も約5年間、脳梗塞を再発するまで会社勤務をしていました。仕事ではメールやメモの活用等で配慮して頂きましたが、繁忙期は、口頭での依頼、苦手のTEL対応もやらざるを得ず、上司が変わった事で人間関係が悪化することもありました。(その予先は家族への八つ当たりで…)。仕事では、苦手なこともやらなければならない、上司の転勤も仕方がない(イコール普通)と思っていました。でも『普通って、何?』『誰視点の普通?』と疑問を感じました。障がい者雇用の門戸は開かれているものの…今後、働き甲斐のある職場に出会い、働き続けられ、目から鱗な発

見をしながら良い方向に転がって欲しいと思います。

妻として、もやもやしたり、自分を責めて落ち込んで、心が皿で居られる時間が少ない今ですが、自分のための時間も作っていききたいです。

【経緯】

50代男性。2014年右ラクナ梗塞、同年ウェルニッケ脳症による高次脳機能障害(記憶注意、遂行機能障害。病識の低下)。2019年脳梗塞により両上下肢感覚異常(失調歩行)。構音障害。2020年転倒による硬膜下血腫。<2020年7月より、ほっぷを利用中>

相談支援センター ほっぷの木

〒980-0014
仙台市青葉区本町1-2-5 第三志ら梅ビル4階
TEL022-208-8880 FAX022-797-8802

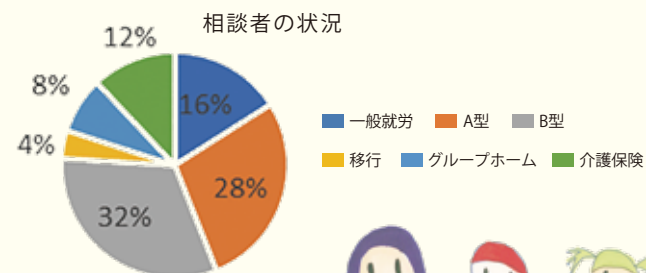


障害のある方が希望する生活をするために、様々な相談を受けながら障害福祉サービスなどを提案し計画を立てていきます。2014年10月からサービスを開始し、高次脳機能障害の方を含め、さまざまな障害をお持ちの方を支援しています。



● 相談者の状況について

相談者の高齢化による介護保険への移行も含めて主なサービスの状況は表のとおりです。



● 他機関との連携について

相談の内容によっては行政担当や各種サービス事業所、どんまいねっと相談支援センターなどとも連携し対応しています。

就労定着支援センター ほっぷの実

〒980-0014
仙台市青葉区本町1-2-5 第三志ら梅ビル4階
TEL022-797-8801 FAX022-797-8802



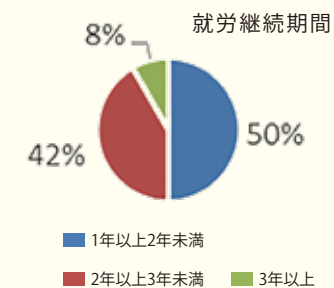
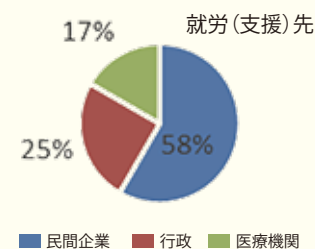
主に就労支援センターほっぷから一般就労(復職)し6ヵ月経過した方に対して、さらに仕事を続けられるためのサポートを最長3年間提供します。月に1回以上、就労先への訪問や面談を行い、本人や企業担当者と面談を行います。2018年10月からサービスを開始し支援しています。



● 利用までの流れ

現在、就労定着支援サービスを利用している方は就労(復職)決定時(場合によっては面接時)に就労後のフォローアップについて就労支援センターほっぷ(就労移行)の支援員から就労(復職)先に説明しています。就労(復職)開始から6ヵ月間は就労支援

センターほっぷの支援員が定期訪問を行いながら支援を行い、その後の定着支援にむけて行政窓口で就労定着支援サービスの申請を行います。支給決定後、支援開始になります。(基本1年ごとの更新が必要になります)



特定非営利活動法人 ほっぷの森

就労継続支援事業A型 TFU cafeteria Olive

〒983-0852
仙台市宮城野区榴岡2-5-26
東北福祉大学仙台駅東口キャンパス1F
TEL 022-762-7827 FAX 022-762-7828



仙台駅東口徒歩3分、東北福祉大学
仙台駅東口キャンパス1Fに
大学の学食として2019年1月
カフェテリアオリーブをオープン。
地域に開かれたレストランとして
どなたでもご利用いただけます。
キャンパス内では様々なイベントや、
講演会、研修会、会議などの
利用もあり、お弁当や
ケータリングなどご注文をいただき、
オリーブから飲食を提供しています。
また、インターンシップや学生との
福祉的な関わりを積極的に行い、
学生の学びの場としての
レストランでもあります。



■ レストランでの仕事

● ホール

ドリンク作りやケーキの盛り付け、コーヒー焙煎、
コーヒードリップ、レジ打ち、接客、料理運び、
帰られたテーブルの片付け

● 調理補助

料理の仕込み、ピーラーでの皮むきや包丁でのきざみ作業、
盛り付け、調理、片付け、在庫管理

● 事務補助

伝票の整理・集計、納品書・請求書の
整理、PC作業、
消耗品の管理・発注、銀行業務
(売上の入金、両替、振込)



勤務時間	早番 9:30~16:30 (1時間休憩) 遅番 14:00~21:00 (1時間休憩)
休日	週休二日制、お盆休み、年末年始休み
加入保険	雇用、労災、健康、厚生
賃金形態	時給制

特定非営利活動法人 ほっぷの森

就労継続支援事業A型 びすた〜り 榴ヶ岡

〒983-0851
仙台市宮城野区榴ヶ岡5番地
みやぎNPOプラザ1階
TEL & FAX 022-299-2888



JR榴ヶ岡駅より徒歩7分。
仙台駅からも徒歩15分、
みやぎNPOプラザ1Fにある
レストランです。
レストランの大きな窓からは
青い空と緑の木々、
春には桜が満開の榴岡公園が
目の前に広がります。
様々なNPO団体と連携しながら、
お客様にも働く人にも
喜んでいただける
レストランを目指しています。



事業所と雇用契約を結び、
働きながら次のステップを目指します。
利用期限はありません。

「お客様の笑顔」から働く喜びを学びます。



特定非営利活動法人 ほっぷの森

就労継続支援事業B型 びすた〜リフードマーケット

〒982-0011
仙台市太白区長町1-2-8
TEL022-738-7231 FAX022-738-7232



■ びすた〜リフードマーケットでの仕事

●畑作業

土作り、種まき、雑草取り、収穫、農薬を使わない
安全で美味しい野菜を作ります。

自然を感じ、鳥や虫の声を聞きながら、
作業を通して働くことの楽しさを学びます。

収穫野菜は店舗で販売。

レストランでのお料理としても、お客様にお出ししています。

野菜が美味しいとお客様から評判です！

●収穫野菜の仕分け・加工品製造

収穫野菜の大きさをそろえる　きれいに洗う
数を数える　グラムを計る　野菜の皮をピーラーでむく
ボールやザルを洗う

●店舗販売

接客、レジ打ち、商品の値付け、陳列、補充、在庫確認

●軽作業

包装袋作り、ラベル色塗り、シール貼り、野菜の袋詰め



特定非営利活動法人 ほっぷの森

就労継続支援事業B型 cafe Jho Jho

〒982-0011
仙台市太白区長町3-7-26
長町病院 1F
TEL022-796-1061 FAX022-796-1062



「びすた〜り」(ネパール語)も、
「じょじょ」(徐々に)も“ゆっくり”の意味。

それぞれが
得意な仕事の中で、
ゆっくりと働く力を
つけていきます。
利用期限は
ありません。



長町病院の1階に入っているカフェ。

病院の先生や看護師さん、地域みなさんがランチに来店。

大にぎわいのカフェレストランです。 価格も日替わりランチ500円！

接客チーム、調理補助チームの息もぴったり！

お客様の「ありがとう！」の声を聞きながら働きます。

■ホールでの仕事

オープンに向けての準備、掃除。お客様への挨拶や声がけ
「いらっしゃいませ、ありがとうございます、...」

注文をうかがう、お水や料理をはこぶ、

ドリンクやケーキの準備、食器やグラスを洗う。

メニューや伝票にも働きやすいように工夫配慮しています。

■調理場での仕事

オープンに向けての準備

(小鉢の盛り付け、サラダの盛り付け、皿の準備)

注文を受けた料理の準備をする。

使い終わった食器を洗う。

元の場所に片付ける。

勤務時間 10:00~16:00

休日 週休二日制、お盆休み、年末年始休暇

工賃 工賃支給規定による





登米市に事業所を開設したのは2017年4月1日でした。

高次脳機能障害をお持ちの方やさまざまな障害、悩みをお持ちの方が就職を目指して2年間トレーニングを行う場所です。人によっては2年も利用せず就職される事もありますが、それぞれの悩みや課題に向き合い、心の波やタイミングを見極めながら、その方に必要なトレーニングを取り組んで頂いています。

また、障害理解を深めるための啓発活動「まなびのかふえ Cafe Spinning」を定期的に開催していましたが、昨今のコロナ事情で現在は休止をしています。

このイベントは障害に関わる機関・医療・事業所の方、当事者と家族の方の経験談などをお話していただき、サービスの利用方法や障害への向き合い方等を共有していただくイベントです。「つぐかふえFacebook」で公開していますのでご覧ください。

●卒業生の就労先

一般就職・自動車整備工場、事務補助、菓子製造業、販売、運送・物流関係など
就労継続支援事業A型、B型事業所

●資格取得

MOS Microsoft Office Specialist 検定 合格者1名

●つなぐでのトレーニング

目的意識が明確で就労経験のあった方は比較的短期間のトレーニングで就職されていますが 就労経験のない方・心の事情から職場から遠ざかっている方が就労に結び付き、長く勤めていくためには 心の土台づくりが大事です。外で働くためには人との関りは必要不可欠です、時間が経つことで継続できなくなるこ

とも多々あります。また漠然と事を進めて終えるのではなく目的・気づきを理解できていた方がやりがいと責任を感じられ、結果的に自立・自発的行動に繋がるのではないかと思います。

つなぐでは 自分の特性をご本人と話し合い、下記を基軸に心の土台づくりに向き合っておりま。

コミュニケーション力

同じ空間にいる共通の悩みを持つ人同士が関わり合う事で距離感や接点を理解していきます。



心と体のバランス

長く外に出ない生活をしていた方も 出勤・訓練・帰宅のルーティンを継続することで規則正しい生活を意識し、自立行動を身に付けます。

自分から話す聞くチカラ

キッチンと話せる・相手の話をしっかり聞ける様に定期的に面談します。気づきを増やし「自分だけの目線」にならないようにサポートします。



集中力

「飽きっぽい」「こだわり過ぎ」など、就職後に課題となる点を「目的・目標」をもって実行する必要さと意味を理解していきます。

●つなぐでの作業訓練

★地元企業様の御協力をいただき、電子機器の組み立て作業等を事業所内で行います。

(ヒューズ盤作成、ハーネス結束、食品会社のパッケージ作成など)

★地元企業様の工場にて就労体験

段階的に稼働時間を調整し、外との関わりと作業実績を構築していきます。





〒987-0511

登米市迫町佐沼字錦130-1
TEL 090-2986-9825

すぱんふいーりんぐず登米では、障がい福祉サービスを利用する方を対象に相談支援業務を行っています。

これまで、件数は少ないですが、病気や事故により高次脳機能障害となった方の支援に関わらせていただきました。

計画相談の立場でできることは、まずはその方が「何に対しどう困っているか」「自分が今後どうなっていきたいか」など思いを確認させていただき、利用できる社会資源の活用をコーディネートすることと考えています。

これまで対応したケースでは、「安心・安全に仕事復帰する」ことを目標に支援をすすめてきたケースがありました。

地域の保健福祉事務所の「リハビリテーション専門職（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）」の方に専門的・技術的支援のご協力を依頼し、保健師・就労支援事業所など関係機関との連携をとらせていただきました。

当事者の方と支援者が同じ目標に向かって進んでいけるよう、必要なタイミングで話し合いの場を調整し、皆さんで情報共有する場を設けました。複数の支援機関が関わってくださることにより、様々な視点で検討を重ねることができました。

チーム支援として一丸となり、その方の目標に向かって、それぞれの支援者が持っている知識・経験により、必要な情報を提供していただき、ご本人の気持ちに寄り添い、それぞれができることを対応していただきました。

また、障がい福祉サービスの利用・計画相談が終了した後も、引き続き安心して必要なサポートを受けることができるよう、対応可能な相談窓口におつなぎすることも支援させていただきます。

「見えない病気」として、障害を理解することが難しかったり、障害を受け入れることに抵抗を示し、辛い時期を過ごされる方もいます。当事者の方しか実感できない複雑な思いはあると思いますが、できる限りその方の思いに近づいた上で、当事者の方が受け入れやすい言葉や働きかけができるよう、今後も高次脳機能障害についての理解を深めて支援に関わっていきたいと思っています。



〒986-0813

石巻市駅前北通り3-8-14
TEL 090-1378-0767

高次脳機能障害の方の相談を受けることも少なくありません。とくに若年性認知の方が多く、もともと普通に就労していた方が事故や脳疾患で陥る例が多いです。サポートとしては、その方の家庭・環境と本人の希望を考慮し、無理なく取り組めること、定着できることを目標にさせていただくこと、また生活リズムを整えるために規則正しい活動に結びつけるような支援をすすめています。

家庭環境の課題などで力が及ばないケースもありますが、心の健康が暮らしの健康になるように寄り添っていきたいと思います。



● ご利用の流れ

ケース会議

ご本人・各事業所の担当で計画について話し合います。

面談・アセスメント

ご本人の希望・目標・課題を伺い、ニーズや状況を整理します。

サービス利用開始

「サービス利用計画書」を自治体に提出し利用を開始します。

プランニング

アセスメントをもとに「サービス利用計画案」の作成をします

モニタリング

定期的に聞き取りし、必要に応じて計画の見直しを行います。

一般社団法人 コ・エル

〒988-0042
気仙沼市本郷11-10
TEL0226-25-9123 FAX0226-25-7518



高次脳機能障害は脳の損傷箇所によって後遺症は1人1人違います。身体的な後遺症を残さない限り、外見上は分かりにくく、そのため周囲の理解が大変、得られづらい後遺症です。当事者は受傷前の当たり前に出来ていた記憶に執着して今の自分が受け入れられません。障害に気づかない訳ではありません。

高次脳機能障害がハンドブックⅡでも紹介させていただきましたが、私たち『一般社団法人コ・エル』は気仙沼在住の高次脳機能

障害者の家族とその支援者が集まり高次脳機能障害や様々な障害への理解と社会参加のあり方、障害者福祉ネットワークの大切さを考え2012年12月に法人を設立しました。そのきっかけとなったのが2009年1月、気仙沼圏域では初めて気仙沼保健福祉事務所で開催された高次脳機能障害家族交流会です。

2011年には東日本大震災から間もない7月から仙台・ほつぷの森から保健福祉事務所への働きかけもあり毎月1回の家族交流会を再開できることになりました。

その家族交流会では、避難所での当事者の行動が理解されない辛さ、非日常の毎日で今まで以上に先が見えない辛さ、大きな不安を抱きつつも踏ん張らなければならない辛さを打ち明ける場となりました。

未曾有の出来事の4か月後の家族交流会は後遺症の問題だけではなく日常生活の基盤となる家庭生活そのものが崩れた状況です。



気仙沼保健福祉事務所<家族交流会の様子>



家族にとってのピアカウンセリングは「同じ背景を持つ者同士が対等な立場で聞きあうこと」ですが、震災後の交流会ではピアカウンセリングも大切ではありませんが、優先すべきは当事者の支援ではないか？そして高次脳機能障害者にはより多くの角度からの視点が必要ではないかという考えに至り、2012年4月から医療・福祉・行政、様々な立場の方にも参加いただけるよう、家族交流会を『高次脳機能障害地域交流会』に変更したのです。私の要望一つ一つに応じてくれた保健福祉事務所の母子・障害者の職員の方々には本当に感謝しております。

その地域交流会をきっかけに毎月のように参加していた有志が集まり、高次脳機能障害者と支える家族が将来、この地域で生きていくために今、何が気仙沼に必要な検討を重ねました。障害があっても地域で生きる、地域で役割をもつイコール『働くこと』。必要な支援は就労移行支援事業所に決まりました。設立にあたり仙台的『どんまいネッ

トみやぎ』のご指導をいただき、2013年3月、大震災によって失われた障害のある方の就労の機会を再び取り戻したいという熱い思いで『就労サポートセンターとれいん』がスタートしました。

2014年には気仙沼市立病院が県内初の地域支援拠点病院として宮城県から指定を受け、支援コーディネーターも任命されました。当事者・家族を中心に支援コーディネーターや地域の支援者と顔の見える繋がりを持ち、当事者も家族も支援者も孤立しない！が、当地域の特徴です。そしてこれまでの経緯が『気仙沼モデル』と言われています。

高次脳機能障害は精神障害に括れますが、発症原因が判明しているが故、当事者も家族も「もし、あの時こうしていたら…」「あの日出かけなければ」と後悔し自分や家族を責めてしまいます。家族が行き詰まらないため、孤独を感じないために、ピアカウンセリングの場としての気仙沼保健福祉事務所での家族交流会は今後も継続していただければありがたいと思います。『コ・エル』の設立のきっかけになったように、また新たな動きを期待してやみません。



柴本礼さんとどんまいネットみやぎと東北各県の家族会代表の皆さん

就労サポートセンター とれいん

〒988-0042

気仙沼市本郷11-10

TEL0226-25-9123 FAX0226-25-7518



障害のある方々に対し、
社会人としての自覚、自立
ができるように特性にあっ
た機能訓練などを取り入れ
て、継続的なトレーニング
を2年間行い、就労の実現
を目指します。

方法はひとつではありません。

たくさんの人たちと出会い、就労を目指して
ひとりひとりの個性とスピードを大切にしながら
共に歩んでいきましょう。



就労定着支援センター とれいんプラス

就労した後のサポートをします。

月1回以上の訪問・面談を行い、仕事の
困りごとと一緒に解決していきましょう！
最大3年間利用できます。



相談支援事業

相談支援センター じょいん

〒988-0042

気仙沼市本郷11-10

TEL0226-25-7501 FAX0226-25-7518



誰もが『なりたい自分になる』を応援します！

平成28年4月に開所し、15名の高次脳機能障害の方を支援してきました。

「過去と現在の自分の違い」「前と何も変わっていないと思っているご本人を支えるご家族の不安」「障害者サービスを勧められたショック」「周りに理解してもらえない事への不安」「見た目ではわからない障害への理解」「将来の不安や諦め」など、お一人おひとりが抱える課題に寄り添ってきました。不安が多いことだけではなく、ご本人に合った福祉サービスの利用や就労の実現を達成し、一緒に達成感や喜びを感じたことも多くあります。誰でも「はじめて」や「受け入れることへの不安」に踏み出すことは、とても勇気が必要です。そんな時に、一人や家族だけで踏み出すのではなく、「一緒に」「不安を少なく」「受け入れやすい」お手伝いを、関係機関と「チーム」でサポートできるように心がけて行っています。

● 障害児相談支援事業

障がいのある児童の心身の状況や環境、または障がい児の保護者の意向などを考慮し障害児福祉サービスが利用するための支援を行います。

● 指定特定相談支援事業

障害者の抱える課題の解決や適切なサービス利用に向けて、サービス等利用計画の作成等を行います。

現在は、障がい児の療育支援・障がい児福祉サービスの利用や障がい者の福祉サービス利用を含め、ご家族や関係機関（保育・学校・職場・児童相談所・医療・更生保護機関・福祉サービス事業所など）と連携し、一人ひとりに寄り添い、状態や状況、意向に添った支援が提供できるよう活動をしています。



提供 東北大学病院

高次脳機能障害の回復は、本人や家族を中心に、医療や福祉・介護に関わる専門職の連携が大切。

東北大学病院 高次脳機能障害科

診療科長 鈴木 匡子

当科は日本では数少ない高次脳機能障害専門の診療科です。高次脳機能障害は、脳のある部分がいろいろな原因によって傷つくことによって生じます。脳のどの部分に障害があるかによって症状はさまざまです。お一人お一人しっかりそれを見きわめて対応することが大切です。わたしたちは、ほかの医療機関から高次脳機能障害を疑われて紹介された患者さんについて、次のようなことを行っています。

- ① 高次脳機能障害があるか、あるとすればどんな高次脳機能障害かを明らかにすること
- ② 脳画像、神経心理学的検査などを組み合わせ、症状がおきてくるメカニズムを知ること
- ③ ①、②をもとにそれぞれの患者さんの症状に適した治療や対応を考え、ご本人、ご

家族、医療/福祉の専門職の方とも相談しながら、体制を整えていくこと

④ 高次脳機能障害を引き起こしている病気などについて適切な治療が行われるように連携すること

⑤ 医療や福祉で適切なサービスを受けるために必要な診断書などを作成すること
これらを通して、高次脳機能障害で不自由を感じている人が、より生きやすくなるための支援を行っています。高次脳機能障害の回復への道程は短期決戦ではなく、長期戦です。日や週ではなく、月や年の単位で考える必要があります。ご本人やご家族を中心に、医療や福祉・介護にかかわる多くの専門職が連携することで、この長い道程を歩んでいくことができると考えています。その第一歩が踏み出せていない方、途中で道に迷ってしまった方はぜひ受診してください。

高次脳機能の診察はじっくりお話を聴き、十分に時間をかけて行います。そのため、受診は完全予約制になっています。はじめて受診される方は、脳に関して現在治療を受けている診療機関を通してご予約をお取りください。☎0120-201273
これまでの治療経過も大事ですので、紹介状をご持参くださるようお願いいたします。

記憶できない



計画できない



気がちりやすい



怒りっぽい



外見ではわからないからこそ、
自分を理解し、早期のリハビリが望ましい。

東北医科薬科大学病院 高次脳機能障害支援センター

センター長 藤盛 寿一

高次脳機能障害とは、くも膜下出血や頭部外傷などの脳の病気が原因で生じる、脳の機能障害のことです。1年間に全国で約3000人の患者様が新規発生しているとも言われています。しかし、外見からは分かりにくく症状をとらえにくい「見えない障害」とも言われ、以前は長らく支援の対象外となっていました。

2001年に国立リハビリテーションセンターを中心とした高次脳機能障害支援モデル事業が開始され、当院(旧東北厚生年金病院)も評価支援システムの開発に携わりました。2006年からは、全国で高次脳機能障害者支援普及事業が開始され、当院は宮城県の高次脳機能障害支援拠点病院に指定されました。2016年には大学の医学部開設に併せて院内に高次脳機能障害支援センターが設置されています。

このように当院は約20年間にわたり高次脳機能障害者の支援に携わって参りましたが、立ち上げ当初から深く関わってこれたのが、現在「どんまいネットみやぎ」の代表をされている遠藤実先生になります。

現在、高次脳機能障害支援センター開設から5年が経過し、この間のべ259名の患者様の相談支援に携わってきました。対象は30～60代の方が約8割を占めており、

ご相談内容は復職・就労支援に関するものが大半を占めています。

外来通院をしながら評価する場合と、約2週間の短期入院をして頂いた上で集中的に評価を行う場合があります。また、評価後に社会資源を御利用いただくために、支援機関と連携をとるようにしております。

その他、脳卒中後などの自動車運転再開可否の評価も行っています。机上検査、ドライビングシミュレーター検査などの他、地域の自動車教習所と提携し実車教習評価を行なっています。

なお、高次脳機能障害のリハビリは発症後できるだけ早期から開始することが望ましく、1年以上を無為に経過するとその訓練効果は十分でなくなることも示されています。我々の以前の検討では、高次脳機能障害の診断までに1～2年以上を要した患者さんは全体の約2割を占めていました。早期に高次脳機能障害の評価やリハビリが受けられるように、啓蒙を続けていくことも我々の使命の1つだと思っています。

これからも宮城県内の支援機関の皆様と協力して、高次脳機能障害の患者様の支援を行っていかれたらと思っています。引き続きよろしくお願ひ致します。

やむを得ず『運転を断念する方』もありますが、
時間をかけて準備を行い、必要な手続きをして
『運転を再開する方』もいます。

仙台リハビリテーション病院

リハビリテーション部 副部長 言語聴覚士 中川 大介

高次脳機能障害は外からは見えづらい障害と呼ばれています。高次脳機能障害は脳の病気や外傷などで生じるといわれており、注意力の低下や記憶力の低下、判断力の低下などが生じ、日常生活に大きな影響をもたらすことがあります。近年、この脳の病気、外傷の方が発症（受傷）後に運転を希望されることが増加しており、その支援を行う医療機関でも様々な取り組みがなされています。

その社会的背景としては、自動車運転と地域の生活は密接な関わりがあり、運転ができないと生活がしづらい地域があることや障害があってもどんどん社会へ出ていく思想が醸成されてきたことが挙げられます。また、障害者や高齢者の運転に関する社会的関心の高まりに伴い、それにかかわる法律も年々変化していることも病気や外傷後の運転希望者の増加、それを支援する医療機関の増加につながっていると思われます。

障害者の自動車運転に関わる法律については、以前は特定の病気であれば自動車運転免許の取得はできませんでしたが、2002年の道路交通法の改定により障害があってもその障害の程度をみて個別に運転の可否を判断することになりました。この改定により特定の病気や症状により免許取得ができないということはありませんでしたが、現在も自動車等の安全な運転に必要な認知、予測、判断又は

操作のいずれかに係る能力を欠くおそれがある病気について免許の拒否・保留となることが道路交通法で定められています。よって脳の病気や外傷の方が運転再開を希望された場合、運転再開に問題がないのか評価を必要とする場合があります。

運転再開の評価を行っている医療機関では、ご本人が運転再開を希望され、かつ、その医療機関での取り組みに同意された後、認知機能や注意力、判断力等の評価を行います。医療機関の中には机上での評価だけではなく、自動車学校と連携し実際の運転を評価したり、ドライブシミュレーターを用いて評価を行う医療機関もあります。医療機関は運転の可否を判断するのではなく、あくまでも医学的側面から運転の危険性を説明する立場にあり、運転の可否は最終的に運転免許センターでの運転適性相談を受けた後に判断されます。免許センターが医療機関に診断書の提出を要請し、診断書の内容をみて運転の可否を判断する場合もあります。

運転再開までの手順については各都道府県や医療機関によっても対応が異なる場合がありますので事前の確認をお勧めします。



おわりに

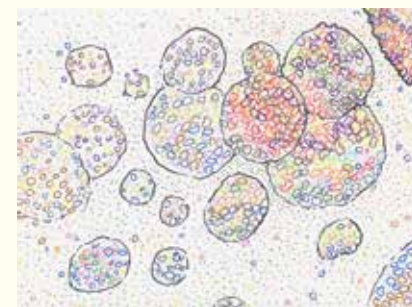
「たかピーさんの生き方」



このハンドブックは今回一般社団法人アート・インクルージョンとの共同で制作しました。アート・インクルージョンは就労継続B型事業所でアートを中心に活動していますが、チラシや冊子などの印刷物のデザインから印刷所とのやり取りまでも行っています。

この事業所に就労支援センターほっぷから来た小野寺隆司さん（アーティスト 名たかピー）がいます。たかピーさんは高次脳機能障害で、復職も可能な状態でトレーニングしていました。活動の中でアート・インクルージョンを見学して、子供の頃、プラモデルを作ったり、折り紙などが大好きだったことを思い出し、とても楽しそうな皆さんに魅かれて、仲間になりたくりました。

入所して6年、今はリーダー的存在になって、仲間の皆さんからとても尊敬され、慕われています。自分が高次脳機能障害であることを意識することなく、なんでも受け入れてくれる自由さが気に入っ



▲独特のタッチで表現する点描画作品

て、麻痺があってもダンスをしたり、細かい作業の工作をしたり、これまで描いたことのない点描画を描き、それがポスターや、本の表紙になって大活躍です。

今回このハンドブックのイラストはアート・インクルージョンの仲間たちのイラストです。

なりたい自分になる、それは自分が生きがいを持って、自分の尊厳を守ることができることだとたかピーさんは感じています。まだまだ高い目標がありますが、日々楽しく生きること家族も喜んでくれています。たかピーさん「いい生き方見～つけた！」でした！



▲書籍の表紙に採用された作品

● 一般社団法人 アート・インクルージョン

〒980-0811
仙台市青葉区一番町3丁目8番14号 スズキアバンティビル3F
TEL022-797-3672 FAX022-797-3673



イラスト：アート・インクルージョンの表現者たち

- コウセイ ● たかピー ● みちか ● 妄想エンジン全開娘
- KASUMI ● ミッキー ● かつつん



MEMO

